

在ブラジル日本国大使館 推薦受章者

氏名	肩書き	住所
ヴィトル・リッピ	連邦下院議員	サンパウロ州ソロカバ市
<p>(主な功績)</p> <p>長年にわたり、連邦下院議会の日伯友好議連第二副会長として、毎年6月に日本人移住記念日特別セッションを開催する等日伯関係強化に寄与。また、税制改革委員会の委員として、約300の会員を有するブラジル日本商工会議所の要望を受け、議会で働きかける等伯進出日系企業を支援。2005年～2012年には、約3万人の日系人が在住するソロカバ市の市長として、日本公園の設置、トヨタのソロカバ工場への誘致への協力等、日伯間の文化・経済発展を促進。</p>		

在サンパウロ日本国総領事館 推薦受章者

氏名	肩書き	住所
市川 利雄	前ブラジル日本都道府県人会連合会会長	サンパウロ州 サンパウロ市
<p>(主な功績)</p> <p>ブラジル富山県人会会長、ブラジル日本都道府県人会連合会(県連)会長、フェスティバル・ド・ジャポン(県連日本祭り)実行委員長を歴任し、日伯間の文化交流を促進した。県連会長として、2022年には新型コロナウイルス感染拡大で中断していた県連日本祭りを再開させ、3日間の開催期間に約18万人を集客する等、同イベントを成功に導いた。また、ブラジル国内のみならず中南米各国の日系団体に対し、日本祭りに関する知識やノウハウを共有し、日系社会の活性化に尽力した。</p>		

氏名	肩書き	住所
生駒 憲二郎	陶芸家	サンパウロ州イタペセリカ・ダ・セーハ市
<p>(主な功績)</p> <p>日本最後の移民船でブラジルに移住した後、土本真澄氏の下で芸術を学び陶芸の道に進むことを決意。材料や設備、模範とする陶芸家もいない環境で独学にて制作を続け、1982年にブラジルで初となる穴窯を自らの手で建設。ブラジル現代陶芸(CCBRA)設立を提案し、陶芸家たちの交流の場を立ち上げた。日本ブラジル文化福祉協会美術委員会に約20年に亘って携わり、同委員長も務めた。現在はアトリエ兼教室にて作品の制作と平行しワークショップも行い、日本文化の普及に貢献している。</p>		

氏名	肩書き	住所
岡本 ルイズ正雄	元社会福祉法人こどものその理事長	サンパウロ州 サンパウロ市
<p>(主な功績)</p> <p>知的障害者施設である社会福祉法人「こどものその」理事長として、同施設運営を通じ、日系社会の福祉向上に貢献した。同施設運営における収入は寄付に頼っており、社会経済状況等の影響で厳しい運営が続いていたところ、日系社会の障害者福祉への理解を広め、寄付収入増を実現した。資産管理においても力を発揮、財政状況を立て直し、さらに施設改修工事を実施し入居者の生活環境を改善した。2008年9月には、同施設の創立50周年記念式典を実施し成功に導いた。</p>		

氏名	肩書き	住所
園田 昭憲	元ブラジル日本都道府県人会連合会会長	サンパウロ州 サンパウロ市
<p>(主な功績)</p> <p>ブラジル鹿児島県人会会長、ブラジル日本都道府県人会連合会（県連）会長、サンパウロ日伯援護協会副会長等様々な日系団体で重職を務め、日伯間の文化交流に貢献した。2011年から2014年の県連会長時には、経営者としての手腕を活かしながら、フェスティバル・ド・ジャポン（県連日本祭り）の更なる拡充を図った。また2013年には、ブラジル日本戦後移住60周年祭実行委員会との共催により、ブラジル日本戦後移住60周年記念祭を成功に導いた。</p>		

氏名	肩書き	住所
フランク・ヒロシ・ツダ	モジ・ダス・クルーゼス日伯文化協会会長	サンパウロ州モ ジ・ダス・クルーゼ ス市
<p>(主な功績)</p> <p>同人は、2009年にモジ・ダス・クルーゼス日伯文化協会副会長、2017年から会長に就任。日伯間の友好親善と文化交流の促進、文化・スポーツ・農業・慈善事業・福祉・観光活動等、モジ・ダス・クルーゼス地域の日系人の発展のため長年に亘って尽力してきた。また同協会の活動の中で、毎年開催する秋祭りは地域最大規模の農業祭であり、同人はその秋祭りの実行委員会委員長も務め、12万人を超える集客を実現し、日本文化の普及と、両国の友好親善と相互理解の促進に寄与した。</p>		

氏名	肩書き	住所
林 勝徳 ワルテル	サン・ジョゼ・ドス・カンポス市市議会議員	サンパウロ州サン・ジョゼ・ドス・カンポス市
<p>(主な功績)</p> <p>同人は、1997年にサン・ジョゼ・ドス・カンポス市市議会議員に当選し、7期連続して努める傍ら、同市の日系3団体（同市日伯文化協会、オリオン・レクリエーションクラブ、同市文協）に所属し、両国の友好親善と日本文化の普及に尽力してきた。日本人ブラジル移住100周年・110周年、日ブラジル外交関係樹立120周年、同市の日本人移住100周年記念行事を企画し、また文化・スポーツイベントの開催など、日本文化の普及と両国の友好親善と相互理解の促進に貢献。</p>		

氏名	肩書き	住所
南 洋行	サンベルナルド・ド・カンポ市市議会議員	サンパウロ州サンベルナルド・ド・カンポ市
<p>(主な功績)</p> <p>同人は、サンベルナルド・ド・カンポ市市議会議員を7期務め（1997年から現在）、日系議員として長年日系社会の地位向上に尽力してきた。同人の発意により市議会が1998年5月、日本移民とその子孫を称える条例を制定したことは主たる功績の一つである。また議員任期途中で市政府要職（情報技術企画長官等）も務め、JICAとの連携プロジェクト実現に貢献するなど、同市と日本政府との橋渡しの役割を担ってきた。1994年に同市日伯連合会を設立、初代会長を務めるなど、日本文化・伝統の維持・発展にも貢献。</p>		

団体名称	住所
財団法人赤間学院ピオネイロ校	サンパウロ州サンパウロ市
<p>(主な功績)</p> <p>日系子女教育の先駆者である赤間みちへ氏が1933年にサンパウロにおいて創立した裁縫教授所「サンパウロ裁縫女学院」を前身とする。1935年に日本語小学部等を増設し、以降日本移民の女子教育と日本語教育に尽力し続け、1971年に日系初となるブラジル政府教育省公認のピオネイロ校となった。同校は幼稚部から高校まで半日及び全日制で行い、特に文化・教養・運動に力を入れた一貫教育を理念とし、生け花、そろばん、柔道などの日本文化の選択制授業も積極的に行っている。現地における日本語教育と日本文化の普及に大きく貢献している。</p>	

氏名	肩書き	住所
ニルソン・タモツ・アゲナ	カンポ・グランデ日伯文化体育協会会長	マツト・グロツソ・ド・スール州カンポ・グランデ市
<p>(主な功績)</p> <p>同人は、2012年にカンポ・グランデ日伯文化体育協会副会長、2019年に会長に就任した。カンポ・グランデ地域における日本文化の普及や日本祭りの実施等を通じて日伯交流の促進に大きく貢献。2015年の秋篠宮同妃両殿下ご訪問の際には副会長として歓迎式典を主導、会長に就任してからは日本文化の普及イベント開催に尽力し、現在まで3回に亘って開催された日本祭りを企画・運営し、約25,000人を集客し成功させ、地域への経済活性化と共に日本文化の普及と両国の友好親善と相互理解の促進に貢献した。</p>		

在マナウス日本国総領事館 推薦受章者

団体名称	住所
アマゾナス柔道連盟	アマゾナス州 マナウス市
<p>(主な功績)</p> <p>アマゾナス柔道連盟は、1972年のミュンヘン・オリンピックで石井千秋氏が柔道ブラジル代表として銅メダルを獲得したことに刺激を受けた若者達によって、1973年、マナウスに設立された。以来、50年以上に亘り、同団体は、各種柔道選手権、柔道大会の開催等を通じ、アマゾナス州における柔道の普及・振興、柔道家の育成に多大に貢献してきた。更に、柔道という日本の伝統的な武道を通じて、日本の文化や日本人の精神、礼儀作法を多くのアマゾナス州民に伝え、同地域における対日理解の促進と親日感情の醸成にも寄与している。</p>	

在レシフェ日本国総領事館 推薦受章者

団体名称	住所
北東伯元日本人留学生及び研修生の会	ペルナンブコ州レシフェ市
<p>(主な功績)</p> <p>1984年11月に発足した、在レシフェ日本国総領事館管内の北東部7州の元国費留学生及び各種研修参加者をまとめる一大ネットワークを持つ唯一の帰国留学生の会。会員間の親睦にとどまらず、各種日本文化行事を開催。特に同会が日系団体等と連携して実施してきた「レシフェ日本市」は、1997年から現在まで続き、2002年にはレシフェ市の恒例行事となった。市民から絶大な人気を得て成長している同行事は、対日理解の向上、日伯友好親善に大きく貢献。</p>	

在リオデジャネイロ日本国総領事館 推薦受章者

氏名	肩書き	住所
松田 四郎	元松田移民館協会会長	リオデジャネイロ州マカエ市
<p>(主な功績)</p> <p>1966年にリオデジャネイロ州北東部のカンポスドスゴイタカゼス市、マカエ市において、柔道を主とし、空手、水泳等、スポーツを指導。その後、1969年に松田柔道協会を立ち上げ、柔道の指導に尽力した。現在は松田移民館協会と名称を変更し、柔道指導の他に日本文化イベントも実施、主催する「移民祭」は1000人の集客規模を誇る。柔道の普及と日本文化の普及活動を積極的に行い、日ブラジル間の友好親善と相互理解の促進に大きく貢献した。</p>		

氏名	肩書き	住所
エドゥアルド・エウジェニオ・ゴウヴェア・ヴィエイラ	リオデジャネイロ州工業連盟会頭	リオデジャネイロ州リオデジャネイロ市
<p>(主な功績)</p> <p>1995年にリオ州工業連盟会頭に就任。自身の人脈等を活用し、現地日系企業とリオ州政府機関や経済界との関係を取り持つ等、積極的に日系企業を支援し、日ブラジル経済関係の強化に尽力してきた。現地の日本企業投資案件に問題が生じた際には、日本企業と日本政府への支援を表明するとともに具体的な提案を行った。また、2022年から日伯戦略的経済パートナーシップ賢人会議のブラジル側座長を務める等、引き続き日ブラジル両国間の経済分野における関係の強化・発展に尽力している。</p>		

在クリチバ日本国総領事館 推薦受章者

氏名	肩書き	住所
サトミ・オオイシ・アズマ	南パラナ日本語教育センター長	パラナ州クリチバ市
<p>(主な功績)</p> <p>同人は、1971年に日本語教師として教鞭を握り、以降累計で40年以上に亘って日本語の指導に尽力。また自らも日本語教師としての技術向上を怠らず、JICAや国際交流基金等が提供する日本語教師研修に多数参加。これらの功績と実力が認められ、2009年からはパラナ連邦大学人文学部現代外国語学科日本語コースにて助教授を務め、2022年から南パラナ日本語教育センター長に就任した。また日本語学科初心者学生向けに書籍を出版するなど、現地における日本語教育の発展と普及に大きく貢献している。</p>		

氏名	肩書き	住所
ジョルジ・イシイ	元クリチバ日伯文化援護協会会長	パラナ州 クリチバ市
<p>(主な功績)</p> <p>ブラジル第2位の日系社会を有するパラナ州で、クリチバ日伯文化援護協会会長を計3期6年間務め、日本との関係強化及び日系社会の地位向上に尽力。当地進出日本企業や現地社会と良好な関係を構築して寄付を集め、同協会の会館改修や備品の整備を行った他、数多くの日本文化発信イベントを開催した。また、在クリチバ日本国総領事館とも連携して、草の根・人間の安全保障無償資金協力を活用し同協会が運営する日系学生寮内の学習・医療環境を向上させた。また、パラナ州内の全日系団体を束ねるパラナ日伯文化連合会でも副会長を計9年間務め、州内日系団体間の連携強化に努めた。</p>		

在ベレン領事事務所 推薦受章者

氏名	肩書き	住所
小長野 道則	元トメアス総合農業協同組合理事長	パラナ州 トメアス市
<p>(主な功績)</p> <p>同人は、1960年にトメアス市に移住し農業に従事。病害等により日系農家が苦境に陥った経験を踏まえ、試行錯誤の末に生み出されたトメアス式アグロフォレストリーの普及に尽力。森をつくる農業とも呼ばれ、環境負荷が少なく、複数の作物を植えるため収入源を多様化できる効果がある農法。同人は30年以上に亘ってシンポジウムや学会の場での紹介、研修生の受入れ等の活動を展開し、同人が同市農務局長、農業組合理事長を務めた際にも同農法を推進。ブラジル国内外で高く評価され、日系社会の地位向上に大きく貢献した。</p>		

氏名	肩書き	住所
坂口 渡 フランシスコ	元トメアス総合農業協同組合理事長	パラナ州 トメアス市
<p>(主な功績)</p> <p>同人は、2003年から2014年まで、トメアス移住地の日系農家により組織されたトメアス総合農業協同組合理事長を務め、日本を含む海外への販路拡大やジュース加工工場増設等により、同組合の財政基盤強化に尽力した他、東京農工大学等からの研修生を受け入れ、日ブラジル間の学術交流にも貢献。2014年には、若い世代に農業を学んでほしいとの思いから、トメアス初の高等教育機関となるアマゾニア連邦農業大学分校の建設地として土地を無償で提供し、同市における教育の質の向上にも寄与した。</p>		

氏名	肩書き	住所
山田 フェルナンド 輝雄	元パラー日系商工会議所会頭	パラー州 ベレン市
<p>(主な功績)</p> <p>同人は、2009年から2023年までパラー日系商工会議所会頭を務め、日系企業の円滑な経済活動のため尽力。ブラジルの複雑な税制に対応するため専門家を招いたセミナー、州政府や経済学関係者を招致した講演、企業視察等を実施して企業間交流や人脈形成に繋げ、会員企業のビジネス環境改善に取り組んだ。また団体の活動活性化のため、同商工会議所事務所と汎アマゾニア日伯協会貴賓室を改装し交流の場を整備し、2015年の商工会議所設立30周年・日伯外交関係樹立120周年の際には商工会主催で式典を開催する等、経済交流活動に貢献。</p>		

氏名	肩書き	住所
山本 修 ジルベルト	アマゾニア日伯援護協会会長	パラー州 ベレン市
<p>(主な功績)</p> <p>同人は、パラー州財務局に勤務する傍ら、2015年からアマゾニア日伯援護協会会長を務め、同協会が持つアマゾニア病院の財政改善に尽力するとともに、病棟の新設等施設の拡張を図るなど、現地日系社会における医療福祉事業の向上に大きく寄与した。また、2020年から2024年までカスタニャル日伯文化協会会長を務め、会長としてパラー州各地の日系団体との連携を強化しつつ、日本文化普及活動に積極的に取り組み、日系社会の活性化と文化普及活動を通じた友好親善と対日理解の促進に貢献。</p>		

在ポルトアレグレ領事事務所 推薦受賞者

氏名	肩書き	住所
グチェヘイス 大澤 秀子	元日本語普及センター・ポルトアレグレ・モデル校校長	ブラジル国リオ・グランデ・ド・スール州ポルトアレグレ市
<p>(主な功績)</p> <p>同人は、現地や他国において日本語教師を務めていた経験等から、1998年3月に日本語普及センター・ポルトアレグレ・モデル校の校長兼日本語教師としての就任要請を受けて就任、以降25年間に亘って校長・教師として日本語の教育に尽力してきた。また同人は日本語学習者の対日理解を高めるため、各種日本文化のイベントを開催し、日本文化の普及にも尽力し、同校を現地における日本語と日本文化の発信拠点に導くと共に、その活動を通して日伯間の相互理解と友好親善の促進に大きく貢献した。</p>		

氏名	肩書き	住所
谷口 浩	南日伯援護協会会長	ブラジル国リオ・グランデ・ド・スール州ポルトアレグレ市
<p>(主な功績)</p> <p>同人は、1998年から約4年間日本語モデル校の運営委員長として同校の管理・運営に尽力。2004年に同校運営母体の日本文化協会副会長、2014年から2年間会長を務めた。同人は、日本語と日本文化の普及に尽力し、2014から16年は自ら委員長として日本祭りを指揮し、現在約70,000人以上の集客を誇る日本祭りの礎を築いた。また2018年から南日伯援護協会会長に就任、会員・家族間の親睦及び在留邦人・日系人の福祉向上・増進に努め、日伯間の相互理解と友好親善の促進に大きく貢献している。</p>		